

# 久留米市田主丸町 関戸遺跡にて 奈良時代の家族のおうち時間をのぞき見る



3月31日号  
令和3年度最終号

編集・発行  
九州歴史資料館  
電話 0942-75-9575

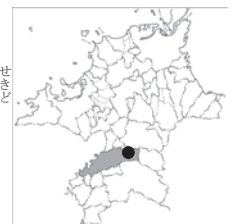


84号竪穴住居跡から出土したカマドと土器

## 浮羽バイパス建設に先 立つ発掘調査の成果！



竪穴住居跡から出土した須恵器と土師器(個人用の食器)



令和三年  
度に当館が  
行った、久  
留米市田主  
丸町に所在

する関戸遺跡の発掘調査が終了した。本調査は、国道210号線浮羽バイパスの建設工事に先立って行われたものである。

関戸遺跡では、現在の耕作土の直下より、古墳時代後期後半から奈良時代にかけての集落跡が見つかり、数百年の間、過去の人々によって利用された場所であったということが判明した。



上空からみた掘立柱建物跡群(丸い柱穴が規則的に並ぶ)

カマドをもつ84号竪穴住居跡から興味深いものが見つかった。カマドの袖から石が二つ上に突き出し、袖の中央には甕の破片が置かれていたのである。また、カマドからやや離れた位置には、甕(昔の蒸し器)の破片が二つ置かれていた。袖から突き出した石は、カマドの壁を支える骨組みのようなものであったと思われる。また、甕と甑は、当時この住居に住んでいた人によって、住居を廃棄する際に

お祀りの一環として意図的に置かれたものであると推測される。調査担当者の坂本真一技術主査によると、関戸遺跡のように、遺構がたくさん発掘される遺跡ガチャに当たってしまう人を「当たり屋」と言うそうだ。また、遺構がたくさん出土しただけでなく、土の色の違いの認識も難しかったので、何度か白目を向いた日もあったそうだが、心を燃やして調査を乗り切ったようだ。(梶佐古記者)

上空からみた関戸遺跡(四角い穴の一つ一つが竪穴住居の跡)

